

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	学年	4	開講区分	後期	担当教員		
	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

理学療法士として現場で地域住民に健康増進に貢献している教員が、国家試験の共通分野である科目(内科学、臨床神経医学、整形外科学、小児科学、人間発達学、臨床心理学、精神医学、リハビリテーション概論)について授業を行なう。上記科目を理解することによって基礎を習得し専門科目に対応できる知識や理解を身に着けてほしい。国家試験の出題頻度は共通三科目ほど多くないが基礎を身に着け応用問題でも対応できるようになってほしい。

[到達目標]

国家試験の共通問題に対応できる。
専門分野でも基礎を身に着けることにより対応できる能力を養う。

[使用教材、参考文献等]

プリント中心 各自参考書は持ってくること

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション解剖学の復習 骨	グループで学びあいながら復習できる
2	解剖学問題解答	解答力をつける
3	解剖学 GW	グループで学びあいながら復習できる
4	解剖学の復習 関節	グループで学びあいながら復習できる
5	解剖学問題演習	解答力をつける
6	解剖学 GW	グループで学びあいながら復習できる
7	解剖学の復習 内臓	グループで学びあいながら復習できる
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	解剖学の復習 末梢神経	グループで学びあいながら復習できる
10	解剖学問題演習	解答力をつける
11	解剖学の復習 中枢神経	グループで学びあいながら復習できる
12	解剖学問題演習	解答力をつける
13	解剖学 GW	グループで学びあいながら復習できる
14	過去問題	解答力をつける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	学年	4	開講区分	後期	担当教員		
	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
理学療法士として現場で地域住民に健康増進に貢献している教員が、国家試験の共通分野である科目(内科学、臨床神経医学、整形外科学、小児科学、人間発達学、臨床心理学、精神医学、リハビリテーション概論)について授業を行なう。上記科目を理解することによって基礎を習得し専門科目に対応できる知識や理解を身に着けてほしい。国家試験の出題頻度は共通三科目ほど多くないが基礎を身に着け応用問題でも対応できるようになってほしい。

[到達目標]

国家試験の共通問題に対応できる。
専門分野でも基礎を身に着けることにより対応できる能力を養う。

[使用教材、参考文献等]

プリント中心 各自参考書は持ってくること

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	解剖学の復習 中枢神経	グループで学びあいながら復習できる
2	解剖学問題解答	解答力をつける
3	解剖学 GW	グループで学びあいながら復習できる
4	解剖学の復習 中枢神経	グループで学びあいながら復習できる
5	解剖学問題演習	解答力をつける
6	解剖学 GW	グループで学びあいながら復習できる
7	解剖学の復習 中枢神経	グループで学びあいながら復習できる
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	解剖学の復習 末梢神経	グループで学びあいながら復習できる
10	解剖学問題演習	解答力をつける
11	生理学の復習	グループで学びあいながら復習できる
12	生理学問題演習	解答力をつける
13	生理学 GW	グループで学びあいながら復習できる
14	過去問題	解答力をつける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース:理学療法士科Ⅰ部	学年	4	開講区分	後期	担当教員 関口 康平 先生		
授業科目名 国家試験対策講座Ⅱ	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位) 30 (2)	授業回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

理学療法士として現場で地域住民に健康増進に貢献している教員が、国家試験の共通分野である科目(内科学、臨床神経医学、整形外科学、小児科学、人間発達学、臨床心理学、精神医学、リハビリテーション概論)について授業を行なう。上記科目を理解することによって基礎を習得し専門科目に対応できる知識や理解を身に着けてほしい。国家試験の出題頻度は共通三科目ほど多くないが基礎を身に着け応用問題でも対応できるようになってほしい。

〔到達目標〕

国家試験の共通問題に対応できる。

専門分野でも基礎を身に着けることにより対応できる能力を養う。

〔使用教材、参考文献等〕

プリント中心 各自参考書は持ってくること

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	生理学の復習	グループで学びあいながら復習できる
2	生理学問題解答	解答力をつける
3	生理学 GW	グループで学びあいながら復習できる
4	生理学の復習	グループで学びあいながら復習できる
5	生理学問題演習	解答力をつける
6	生理学 GW	グループで学びあいながら復習できる
7	生理学の過去問題	解答力をつける
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	運動学の復習	グループで学びあいながら復習できる
10	運動学問題演習	解答力をつける
11	運動学の復習	グループで学びあいながら復習できる
12	運動学問題演習	解答力をつける
13	運動学の復習	グループで学びあいながら復習できる
14	運動学過去問題解答	解答力をつける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	4	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名	国家試験対策講座 II					谷口 豪 先生		
		必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

整形外科疾患に対するリハビリを専門とした臨床現場とスポーツリハビリでの治療現場での理学療法を併せ持つ専任教員が、国家試験の基礎医学系科目を担当し、国家試験合格に向けて模擬試験と過去問題のポイントを絞って、繰り返し問題を解いていく。

[到達目標]

国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、基本的知識を他者に説明することができる。過去10年間に出来た科目に目を通し、出題の傾向を把握する。合格できる実力をつける。

[使用教材、参考文献等]

プリント中心 各自参考書は持ってくること

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	運動学の復習	グループで学びあいながら復習できる
2	運動学問題演習	解答力をつける
3	運動学 GW	グループで学びあいながら復習できる
4	運動学の復習	グループで学びあいながら復習できる
5	運動学問題演習	解答力をつける
6	運動学 GW	グループで学びあいながら復習できる
7	運動学の過去問題解答	解答力をつける
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	運動学の復習	グループで学びあいながら復習できる
10	運動学問題演習	解答力をつける
11	運動学の復習	グループで学びあいながら復習できる
12	運動学問題演習	解答力をつける
13	運動学の復習	グループで学びあいながら復習できる
14	運動学過去問題解答	解答力をつける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科 I 部	学年	4	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名					谷口 豪 先生			
国家試験対策講座 II	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

整形外科疾患に対するリハビリを専門とした臨床現場とスポーツリハビリでの治療現場での理学療法を併せ持つ専任教員が、国家試験の基礎医学系科目を担当し、国家試験合格に向けて模擬試験と過去問題のポイントを絞って、繰り返し問題を解いていく。

[到達目標]

国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、基本的知識を他者に説明することができる。過去10年間に出来た科目に目を通し、出題の傾向を把握する。合格できる実力をつける。

[使用教材、参考文献等]

プリント中心 各自参考書は持ってくること

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	病理学の復習	グループで学びあいながら復習できる
2	病理学問題演習	解答力をつける
3	病理学 GW	グループで学びあいながら復習できる
4	病理学の復習	グループで学びあいながら復習できる
5	病理学問題演習	解答力をつける
6	病理学 GW	グループで学びあいながら復習できる
7	病理学の過去問題解答	解答力をつける
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	病理学の復習	グループで学びあいながら復習できる
10	病理学問題演習	解答力をつける
11	病理学の復習	グループで学びあいながら復習できる
12	病理学問題演習	解答力をつける
13	病理学の復習	グループで学びあいながら復習できる
14	病理学過去問題解答	解答力をつける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科 I 部	学年	4	開講区分	後期	担当教員 谷口 豊 先生		
授業科目名 国家試験対策講座 II	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位) 30 (2)	授業回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

整形外科疾患に対するリハビリを専門とした臨床現場とスポーツリハビリでの治療現場での理学療法を併せ持つ専任教員が、国家試験の基礎医学系科目を担当し、国家試験合格に向けて模擬試験と過去問題のポイントを絞って、繰り返し問題を解いていく。

〔到達目標〕

国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、基本的知識を他者に説明することができる。過去10年間に出来題された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。合格できる実力をつける。

〔使用教材、参考文献等〕

プリント中心 各自参考書は持ってくること

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	リハビリテーション・理学療法概論の復習	グループで学びあいながら復習できる
2	リハビリテーション・理学療法概問題演習	解答力につける
3	リハビリテーション・理学療法概論の復習	グループで学びあいながら復習できる
4	リハビリテーション・理学療法概問題演習	解答力につける
5	リハビリテーション・理学療法概 GW	解答力につける
6	リハビリテーション・理学療法概過去問題解答	グループで学びあいながら復習できる
7	リハビリテーション・理学療法概過去問題解答	解答力につける
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	整形外科学の復習	グループで学びあいながら復習できる
10	整形外科学問題演習	解答力につける
11	整形外科学の復習	グループで学びあいながら復習できる
12	整形外科学問題演習	解答力につける
13	整形外科学の復習	グループで学びあいながら復習できる
14	整形外科学過去問題解答	解答力につける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	学年	4	開講区分	後期	担当教員			
					山本 敏之 先生			
国家試験対策講座Ⅱ	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療機関・高齢者施設での臨床現場において実習学生に対して検査測定指導を行ってきた専任教員が、国家試験の基礎医学系を担当している。国家試験の基礎医学系科目を担当しており、国家試験合格に向けて模擬試験と過去問題のポイントを絞って、繰り返し問題を解いていく。

〔到達目標〕

国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、基本的知識を他者に説明することができる。過去10年間に出題された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。合格できる実力をつける。

〔使用教材、参考文献等〕

プリント中心 各自参考書は持ってくること

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	内科の復習	グループで学びあいながら復習できる
2	内科概問題演習	解答力をつける
3	内科の復習	グループで学びあいながら復習できる
4	内科概問題演習	解答力をつける
5	心理学の復習	解答力をつける
6	心理学問題演習	グループで学びあいながら復習できる
7	内科心理学過去問題解答	解答力をつける
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	精神医学の復習	グループで学びあいながら復習できる
10	精神医学問題演習	解答力をつける
11	精神医学の復習	グループで学びあいながら復習できる
12	精神医学問題演習	解答力をつける
13	精神医学の復習	グループで学びあいながら復習できる
14	精神医学過去問題解答	解答力をつける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース:理学療法士科Ⅰ部	学年	4	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名					山本 敏之 先生			
国家試験対策講座Ⅱ	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療機関・高齢者施設での臨床現場において実習学生に対して検査測定指導を行ってきた専任教員が、国家試験の臨床医学系を担当している。国家試験の臨床医学系科目を担当しており、国家試験合格に向けて模擬試験と過去問題のポイントを絞って、繰り返し問題を解いていく。

[到達目標]

国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、基本的知識を他者に説明することができる。過去10年間に出来題された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。合格できる実力をつける。

[使用教材、参考文献等]

プリント中心 各自参考書は持ってくること

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	理学療法基礎の復習	グループで学びあいながら復習できる
2	理学療法基礎概問題演習	解答力をつける
3	理学療法基礎の復習	グループで学びあいながら復習できる
4	理学療法基礎概問題演習	解答力をつける
5	理学療法評価の復習	解答力をつける
6	理学療法評価問題演習	グループで学びあいながら復習できる
7	理学療法基礎評価過去問題解答	解答力をつける
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	理学療法評価の復習	グループで学びあいながら復習できる
10	理学療法評価問題演習	解答力をつける
11	理学療法評価の復習	グループで学びあいながら復習できる
12	理学療法評価問題演習	解答力をつける
13	理学療法評価の復習	グループで学びあいながら復習できる
14	理学療法評価問題演習	解答力をつける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部	学年	4	開講区分	後期	担当教員 山本 敏之 先生		
授業科目名 国家試験対策講座Ⅱ	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位) 30 (2)	授業回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療機関・高齢者施設での臨床現場において実習学生に対して検査測定指導を行ってきた専任教員が、国家試験の臨床医学系を担当している。国家試験の臨床医学系科目を担当しており、国家試験合格に向けて模擬試験と過去問題のポイントを絞って、繰り返し問題を解いていく。

〔到達目標〕

国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、基本的知識を他者に説明することができる。過去10年間に出題された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。合格できる実力をつける。

〔使用教材、参考文献等〕

プリント中心 各自参考書は持ってくること

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	運動療法の復習	グループで学びあいながら復習できる
2	運動療法概問題演習	解答力につける
3	運動療法の復習	グループで学びあいながら復習できる
4	運動療法概問題演習	解答力につける
5	理学療法評価の復習	解答力につける
6	運動療法概問題演習	グループで学びあいながら復習できる
7	運動療法過去問題解答	解答力につける
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握とともに、その理解度を深める
9	運動療法の復習	グループで学びあいながら復習できる
10	運動療法問題演習	解答力につける
11	運動療法の復習	グループで学びあいながら復習できる
12	運動療法問題演習	解答力につける
13	運動療法の復習	グループで学びあいながら復習できる
14	運動療法問題演習	解答力につける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部	学年	4	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名					西原 伸行 先生		
国家試験対策講座Ⅱ	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数
							15

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
脳卒中を中心とする中枢性疾患と骨折・腰痛・骨関節周囲炎などの整形外科的疾患を主な治療対象とする病院で長きに渡り勤務し、養成校においても国家試験対策に専任教員として従事してきた。国家試験の臨床医学系科目を担当しており、解説力を持つために模擬試験と過去問題を中心に問題の傾向と対策を実践する内容になっている。

[到達目標]

国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、基本的知識を他者に説明することができる。過去10年間に出来た科目に目を通し、出題の傾向を把握する。合格できる実力をつける。

[使用教材、参考文献等]

プリント中心 各自参考書は持ってくること

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	義肢装具の復習	グループで学びあいながら復習できる
2	義肢装具問題演習	解説力を持つ
3	義肢装具の復習	グループで学びあいながら復習できる
4	義肢装具問題演習	解説力を持つ
5	義肢装具の復習	解説力を持つ
6	義肢装具問題演習	グループで学びあいながら復習できる
7	義肢装具過去問題解答	解説力を持つ
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	物理療法の復習	グループで学びあいながら復習できる
10	物理療法問題演習	解説力を持つ
11	物理療法の復習	グループで学びあいながら復習できる
12	物理療法問題演習	解説力を持つ
13	物理療法の復習	グループで学びあいながら復習できる
14	物理療法問題演習	解説力を持つ
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。	[特記事項] 国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。
--	------------------------------------

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	4	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名	国家試験対策講座 II					西原 伸行 先生		
		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数
								15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
脳卒中を中心とする中枢性疾患と骨折・腰痛・骨関節周囲炎などの整形外科的疾患を主な治療対象とする病院で長きに渡り勤務し、養成校においても国家試験対策に専任教員として従事してきた。国家試験の臨床医学系科目を担当しており、解答力をつけるために模擬試験と過去問題を中心に問題の傾向と対策を実践する内容になっている。

〔到達目標〕

国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、基本的知識を他者に説明することができる。過去10年間に出来た科目に目を通し、出題の傾向を把握する。合格できる実力をつける。

〔使用教材、参考文献等〕

プリント中心 各自参考書は持ってくること

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	物理療法の復習	グループで学びあいながら復習できる
2	物理療法問題演習	解答力をつける
3	物理療法の復習	グループで学びあいながら復習できる
4	物理療法問題演習	解答力をつける
5	物理療法の復習	解答力をつける
6	物理療法問題演習	グループで学びあいながら復習できる
7	物理療法過去問題解答	解答力をつける
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	発達の復習	グループで学びあいながら復習できる
10	発達の復習	グループで学びあいながら復習できる
11	発達問題演習	解答力をつける
12	骨関節系障害の復習	グループで学びあいながら復習できる
13	骨関節系障害の演習問題	解答力をつける
14	骨関節系障害の過去問題	解答力をつける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部	学年	4	開講区分	後期	担当教員 西原 伸行 先生		
授業科目名 国家試験対策講座Ⅱ	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位) 30 (2)	授業回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
脳卒中を中心とする中枢性疾患と骨折・腰痛・骨関節周囲炎などの整形外科的疾患を主な治療対象とする病院で長きに渡り勤務し、養成校においても国家試験対策に専任教員として従事してきた。国家試験の臨床医学系科目を担当しており、解答力をつけるために模擬試験と過去問題を中心に問題の傾向と対策を実践する内容になっている。

〔到達目標〕

国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、基本的知識を他者に説明することができる。過去10年間に出来た科目に目を通し、出題の傾向を把握する。合格できる実力をつける。

〔使用教材、参考文献等〕

プリント中心 各自参考書は持ってくること

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	骨関節系障害の復習	グループで学びあいながら復習できる
2	骨関節系障害の演習問題	解答力をつける
3	骨関節系障害の過去問題	解答力をつける
4	中枢神経問題演習	解答力をつける
5	中枢神経の復習	解答力をつける
6	中枢神経問題演習	グループで学びあいながら復習できる
7	中枢神経過去問題解答	解答力をつける
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	中枢神経系の復習	グループで学びあいながら復習できる
10	中枢神経問題演習	グループで学びあいながら復習できる
11	中枢神経系の復習	解答力をつける
12	中枢神経問題演習	グループで学びあいながら復習できる
13	中枢神経過去問題	解答力をつける
14	中枢神経過去問題	解答力をつける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅰ部 国家試験対策講座Ⅱ	学年	4	開講区分	後期	担当教員 中島 圭吾 先生		
		必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

整形外科クリニックで理学療法士の経験が豊富で、養成校での専任教員として長く国家試験対策に従事してきた実績を持っている。国家試験の臨床医学系科目を担当しており、解答力につけるために模擬試験と過去問題を中心に問題の傾向と対策を実践する内容になっている。

[到達目標]

国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、基本的知識を他者に説明することができる。過去10年間に出来た科目に目を通し、出題の傾向を把握する。合格できる実力をつける。

[使用教材、参考文献等]

過去問題試験

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	末梢神経系の復習	グループで学びあいながら復習できる
2	末梢神経問題演習	グループで学びあいながら復習できる
3	末梢神経系の復習	解答力につける
4	末梢神経問題演習	グループで学びあいながら復習できる
5	末梢神経過去問題演習	解答力につける
6	運動発達障害の復習	グループで学びあいながら復習できる
7	運動発達障害問題演習	解答力につける
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	運動発達障害過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
10	脊髄損傷の復習	グループで学びあいながら復習できる
11	脊髄損傷問題演習	解答力につける
12	脊髄損傷過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
13	脊髄損傷過去問題演習	解答力につける
14	脊髄損傷過去問題演習	解答力につける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース:理学療法士科Ⅰ部 授業科目名 国家試験対策講座Ⅱ	学年	4	開講区分	後期	担当教員 中島 圭吾 先生			
	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
整形外科クリニックで理学療法士の経験が豊富で、養成校での専任教員として長く国家試験対策に従事してきた実績を持つている。国家試験の科目を担当しており、解答力につけるために模擬試験と過去問題を中心に問題の傾向と対策を実践する内容になっている。

〔到達目標〕

国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、基本的知識を他者に説明することができる。過去10年間に出来題された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。合格できる実力をつける。

〔使用教材、参考文献等〕

過去問題試験

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
2	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
3	国家試験過去問題試験	解答力につける
4	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
5	国家試験過去問題試験	解答力につける
6	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
7	国家試験過去問題試験	解答力につける
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
10	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
11	国家試験過去問題試験	解答力につける
12	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
13	国家試験過去問題試験	解答力につける
14	国家試験過去問題試験	解答力につける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	4	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名	国家試験対策講座 II	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数
								15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
整形外科クリニックで理学療法士の経験が豊富で、養成校での専任教員として長く国家試験対策に従事してきた実績を持っている。国家試験の科目を担当しており、解答力につけるために模擬試験と過去問題を中心に問題の傾向と対策を実践する内容になっている。

[到達目標]

国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、基本的知識を他者に説明することができる。過去10年間に出来た科目に目を通し、出題の傾向を把握する。合格できる実力をつける。

[使用教材、参考文献等]

過去問題試験

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
2	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
3	国家試験過去問題試験	解答力につける
4	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
5	国家試験過去問題試験	解答力につける
6	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
7	国家試験過去問題試験	解答力につける
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
9	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
10	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
11	国家試験過去問題試験	解答力につける
12	国家試験過去問題演習	グループで学びあいながら復習できる
13	国家試験過去問題試験	解答力につける
14	国家試験過去問題試験	解答力につける
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

[評価について]

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

国家試験に対応できように予習復習を自主的に行う。